

ahead

～盲導犬と生きる～

岩手で活躍する盲導犬はどこから来るの？
—知ってほしい、
目の不自由な方のこと、盲導犬のこと—



○ahead(副)

- ① (方向を表して)前へ。先へ。
- ② (時間を表して)将来へ向かって。

もくじ

私たちが伝えたいこと……	3
岩手県の盲導犬……	4
盲導犬協会の特色……	5
ユーザーさんのお話……	6
盲導犬の仕事……	8
盲導犬の一生……	10
ユーザーへの声かけ……	12
盲導犬Q&A……	13
目の不自由な方のグッズ…	18
活動紹介……	20

私たちが伝えたいこと

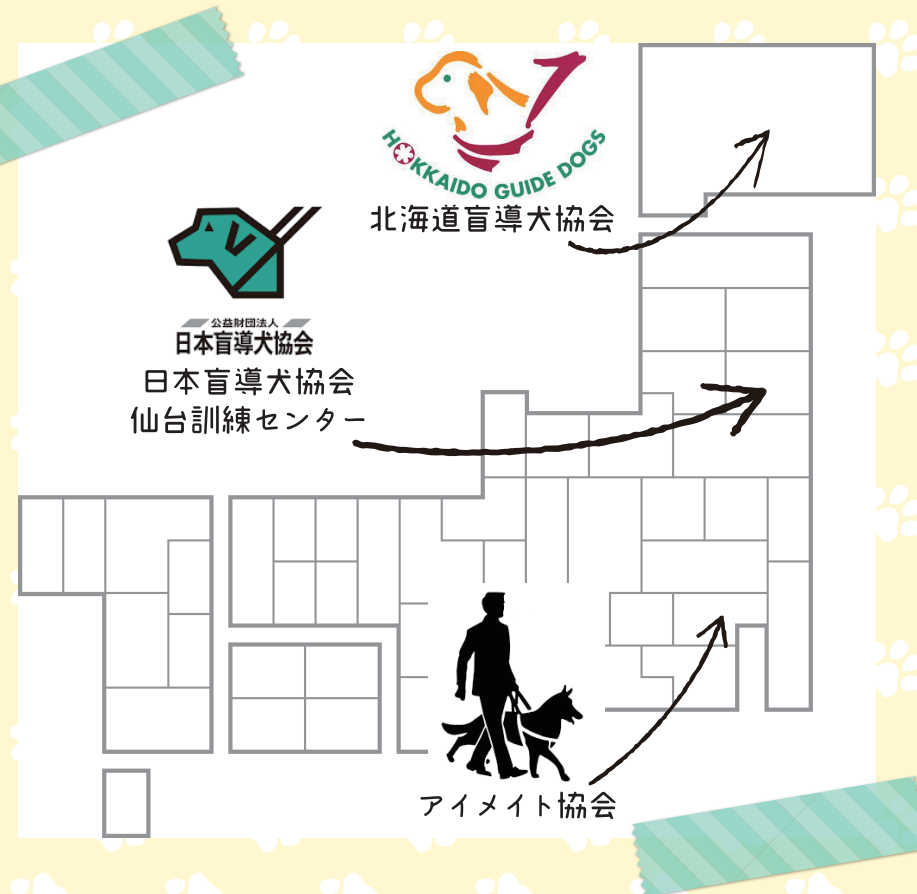
街中で盲導犬を見かけたことはありますか？
 岩手県では現在10頭、全国では941頭の盲導犬が
 目の不自由な方の大切なパートナーとして活躍
 しています。（H30.3.31現在）
 盲導犬を使用していない多くの目の不自由な方々や
 盲導犬ユーザーの方、盲導犬が安心して外出する
 ためには、私たちの理解や配慮、声かけが必要です。

特にこれから社会に出ていく本学の学生や
 地域の子どもたち、そして地域の方々に
 目の不自由な方や盲導犬について知って
 いただき、安心して外出できる街になって
 ほしいと考えています。
 そして学生や子どもたちが社会に出たとき、
 目の不自由な方や盲導犬に対して正しい知識
 を持って対応できる、良き理解者となって
 ほしいと思います。

私たちはLet'sびぎんプロジェクトを通して
 盲導犬に対する“かわいそう”といった偏見を減らし、
 目の不自由な方と盲導犬に対する理解を促進する
 ことを目指して活動していきます。
 まずは私たちがしっかりと学び、多くの方々に
 伝えていけるよう努めていきます。

岩手で活躍する盲導犬はどこから来るの？

岩手県では北海道盲導犬協会、日本盲導犬協会仙台訓練センター、アイメイト協会の3つの団体で育成された盲導犬が目の不自由な方と一緒に生活しています。



それぞれの盲導犬協会はどんな特色があるの？

【北海道盲導犬協会】（北海道札幌市）

雪が降っても盲導犬と歩けるよう雪道訓練をしています。
引退した盲導犬やキャリアチェンジ犬がのんびりと暮らせる「老犬ホーム」があります。

【日本盲導犬協会】

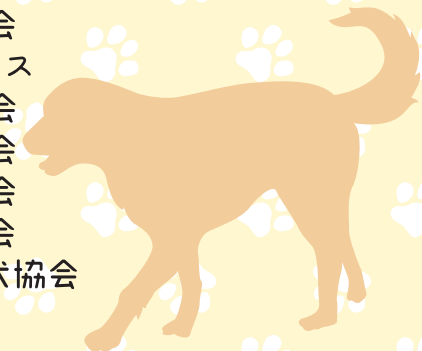
仙台訓練センター（宮城県仙台市）
神奈川訓練センター（神奈川県横浜市）
富士ハーネス（静岡県富士吉田市）
島根あさひ訓練センター（島根県浜田市）
仙台訓練センターは東北地方、北陸地方など主に雪の降る地域を中心に盲導犬を提供しています。

【アイメイト協会】（東京都練馬区）

日本初の盲導犬チャンピーを育成しました。
育成された盲導犬は“アイメイト”と呼ばれます。

《その他の盲導犬育成団体》

公益財団法人	東日本盲導犬協会
社会福祉法人	中部盲導犬協会
社会福祉法人	日本ライトハウス
公益財団法人	関西盲導犬協会
社会福祉法人	兵庫盲導犬協会
公益財団法人	九州盲導犬協会
公益財団法人	日本補助犬協会
一般財団法人	いばらき盲導犬協会



盛岡市在住の盲導犬ユーザーさんにお話を伺いました!

○社会の対応について

駅や空港でのサービスは、昔に比べてとても良くなって便利です。しかし、盲導犬(協会についてなど)の紹介や、自動車優先の道路状況に改善がみられないことなどについては、役所の対応が悪く困っています。また、盛岡市は花巻市に比べ約半分の援助金しか給付されていないのが現状です。

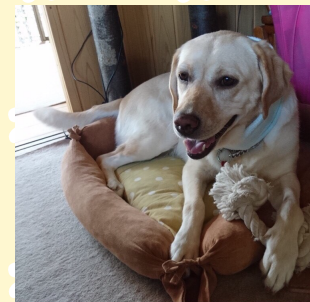
○同行援護について

視覚障害のある人に同行して、移動に必要な情報の提供のほか、ひとりでは難しいことについて援護・介護を行うサービスです。全国組織のため遠出先でも活用できます。また最大の長所として、ガイドヘルパー制度は行うことのできなかつた代筆・代読をすることができます。

○伝えたいこと

盲導犬と歩くときは基本左側を通行するため、自転車と急にすれ違うとびっくりします。前もってベルを鳴らして、自転車の存在を知らせてほしいです。また、声をかけるときは盲導犬にではなく人にかけてほしいです。ただの挨拶でも、どこから近づいてきているかの方向とともに教えてくれると安心します。

※以上は、今回お話を伺った安達さん一個人の意見です。ほかの盲導犬ユーザーさん、目の不自由な方の中にはこれとは全く違った考えをお持ちの方もいらっしゃいます。



◀今回お話を伺った安達靖子さんと暮らす、盲導犬の「ラウ」。いろいろとお話を聞かせていただきありがとうございました!

盲導犬の仕事ってどんなこと？

○安全

ユーザーを安全に目的地まで誘導することはとても大切な仕事です。いつもと違う障害物は避け、ユーザーの命令が危険につながる場合は指示よりも自分の判断で動くことも。

曲がり角を教える

道を歩いているときに曲がり角があるたびに、進行方向から曲がり角に入り込んで止まり、角の存在を知らせます。ユーザーは主に角を数えて確認しながら目的地まで歩きます。



段差を教える

段差があると、上がる場合は一段登って止まり、下がる場合はその場で止まります。ユーザーが段差を確認し、指示があるまでそのまま動きません。



障害物を避ける

電柱などいつもそこにあるものだけでなく、歩行者や自転車に乗った通行人なども視覚障がい者にとっては障害物の一つです。また、高い位置のものや幅の狭い場所など、犬にとっては邪魔にならないものもユーザーと通れるように誘導します。



○案内

ユーザーは頭の中に地図を描き盲導犬に指示を出します。「〇〇（特定の場所）へ」と言っても犬が連れて行ってくれるわけではありません。

目標物を探す

「階段」「ドア」など、近くにある目的物を探し、ユーザーが触る位置まで誘導します。例えば椅子を教える場合、座面に顔を載せて知らせます。



道の端に沿って歩く

外を歩くのはとても難しいことです。盲導犬はユーザーの体の横につき、歩道に沿ってまっすぐ、歩道のない場合は建物に沿って歩きます。



①角を教える ②段差を教える ③障害物を教える
この3つの基本的な仕事を組み合わせて盲導犬の歩行は成り立っています。



盲導犬の一生



誕生～ 生後2ヶ月

家族と過ごす

繁殖犬飼育ボランティアのお宅で
盲導犬の血を引く両親から生まれ、
生後二ヶ月まで母犬や兄弟たちと一緒に過ごします。

2ヶ月 ～1歳

パピーウォーカー

家族とお別れして、パピーウォーカーのお宅へ。
パピーウォーカーに素敵な名前をつけられて、
愛情たっぷり育てられながら、基本的なしつけ、
トイレなどを教えられます。
パピー達はたくさん可愛がられて
人のことが大好きになります。

1歳～約2歳

基本訓練
誘導訓練

パピーウォーカーとお別れして、犬たちは訓練を始めます。
訓練には基本訓練と誘導訓練があります。
基本訓練では、犬が人の指示で座ったり人の横についたり
待ったりすることが楽しくできるように教えます。
誘導訓練では、まっすぐ歩くこと、障害物を避けること、曲がり角や
段差を教えること、近くの目標物まで誘導することなどを教えます。

盲導犬の平均寿命は、ペットとして暮らすレトリバーよりも
少し長い15才前後です。人間でいうと60才以上にあたる
約10才で仕事を引退したのち、子犬の時に暮らした
パピーウォーカーや老犬委託ボランティアの家で過ごします。
また、盲導犬協会の運営する老犬ホームに引き取られる場合も
あります。北海道盲導犬協会では24時間体制での介護やお世話が
されており、老犬たちはここで人や犬と遊んだり寝たりして過ごします。

老後

老犬委託ボランティア
老犬ホーム など

- 老犬ボランティアの募集条件
- ①室内飼育が可能である
 - ②犬との行動のため自家用車がある
 - ③日中の留守が少ない
 - ④基本的にほかの犬を飼育していない



約2歳～ 約10歳

ユーザーとの生活

訓練を終え、盲導犬に向いていると判断された犬たちは、
目の不自由な方(ユーザー)との共同訓練を始めます。
約1ヶ月間の共同訓練を終えると、盲導犬として認定され、
ユーザーの歩行を助けます。
約10歳になるまで、盲導犬はいつもユーザーと一緒に
生活します。お家の中では家庭犬のように元気に遊び、
外に出るときはハーネスをつけて仕事モードに切り替わります。

身体的に懸念がある犬や、性格的に盲導犬に向かないと
判断した盲導犬の候補犬は、進路を変更する事から
キャリアチェンジ犬と呼ばれます。キャリアチェンジ後、
それぞれの性質にあった環境のもとで暮らすことになります。
啓発活動の場でデモンストレーションなどを行う盲導犬PR犬や、
手足が不自由な方のサポートをする介助犬として活躍することもあります。

ユーザーさんに対する声かけ

○街で盲導犬に出会ったら

盲導犬にではなく、ユーザーさんにあなたの視線を向けてみてください。そして、もしユーザーさんが困っている様子であれば、「お手伝いしましょうか？」と聞いてみてください。その一言から、安心と安全につながるコミュニケーションを始めましょう。

○声をかけた後は

お手伝いの内容を聞きましょう。その時の状況によってお手伝いしてほしい内容は違います。ユーザーさんが何をお願いしたいのかを最初に聞いてみましょう。目的地までの誘導、お手伝いが終わった後は、黙ってその場を去るのではなく「ではここで失礼します」の一言をお願いします。

○ユーザーさんの声（盛岡市の盲導犬ユーザー：安達さん）

- ・「おはよう」や「こんにちわ」といった言葉でもうれしい
- ・自分が前から来ているのか後ろからなのかを言ってほしい
- ・すぐ近くよりも、1mまたは2m前で声をかけてほしい
- ・何も声を掛けられずに、急にすれ違うのが一番怖い
- ・いなくなる時には声を掛けてほしい

実際に盲導犬と暮らしている方の生の声なので、声掛けをする際の参考にしてみてください。

詳しい声かけ方法については、別紙の一般社団法人 盲導犬総合支援センター「盲導犬応援プロジェクト」vol2～声かけパンフ～をご覧ください。

盲導犬Q & A

Q.盲導犬を連れている人には話しかけてはダメなの？

A.話しかけられることを望んでいる方も多くいます。一般に話しかけることが良くないとされているのは盲導犬に声をかけることです。困っていそうな時や、危ない状況の時には、ユーザーさんへ声をかけるのがよいでしょう。

Q.盲導犬になれなかった犬はどうなるの？

A.みなさんに盲導犬の仕事について紹介するPR犬や、一般の家庭犬として育つキャリアチェンジ犬になります。訓練している中で、PR犬、キャリアチェンジ犬として生活した方が幸せだと判断されて、それぞれの道を辿ります。決して、おバカさんということではありません。人と同じでさまざまな性格があり、向き不向きがあるのです。

Q.盲導犬は何年くらい生きるの？

A.だいたい15年前後です。盲導犬は体調管理を徹底されているため、健康に過ごすことによって長生きする子が多いです。17～18歳まで生きる子もいます。



Q.ボランティアに参加したいのですがどうすればいいですか？

A.繁殖犬飼育ボランティア、パピーウォーカー、キャリアチェンジ犬飼育ボランティア、引退犬飼育ボランティア、イベントボランティアなどがあります。

○繁殖犬ボランティア

盲導犬の血を引くお父さん、お母さん犬を飼育するボランティアです。お母さん犬を飼育する家庭では子犬の出産が行われる場合もあります。子犬が生後約2ヶ月になるまで育てます。

○パピーウォーカー

生後2ヶ月から約10ヶ月間、盲導犬候補の犬を育てます。子犬と家族の一員として生活し、いろいろなところに出かけたり多くの経験を積んで人間社会に慣れさせます。

○キャリアチェンジ犬飼育ボランティア

盲導犬になるための訓練中に、何らかの理由で盲導犬に向かないと判断された犬を一般の家庭犬として育てます。

○引退犬ボランティア

盲導犬を引退した犬を家族の一員として迎えます。約8年間盲導犬として活躍した10歳前後の犬であることが多いです。

○イベントボランティア

訓練センターで行われる見学会や募金活動、盲導犬のPR活動などでお手伝いします。

ボランティアをするためには各盲導犬協会との連携が必要です。興味のあるボランティアがあったら、盲導犬協会のホームページやパンフレットなどを確認してみてください。

盲導犬の育成は皆様の募金やボランティアによって支えられています。ご協力よろしくお願いします。



Q.盲導犬はストレスを受けてないの？

A.盲導犬のストレスにはしっかり配慮がなされています。まず、犬は人と同様に個性が多様です。訓練の中で、様々な環境で盲導犬の仕事を楽しく行える犬が選ばれ、盲導犬として活躍しています。活発すぎる、繊細すぎるなど性格が盲導犬に向かないと判断した犬は、それぞれに合った一般家庭へ譲渡をするなどしています。また、盲導犬も仕事以外の時間ではユーザーさんと遊ぶなど、のびのびと暮らしています。

Q.障害物がなければもっと歩きやすくないの？

A.実はそうではありません。視覚障害のある方は、手足に触れる感覚や匂いなど様々なものを頼りに歩いています。交差点や駅で見られる点字ブロックもその例です。逆に物が無い広場などはとても恐怖を感じるそうです。今日、バリアフリーが進んでいますが、実際に障害を持っている方の感覚を想像することが重要です。

Q.盲導犬を使用したいときはどうやって申し込むの？

A.在住の市区町村の窓口にお問い合わせの方法と、全国にある盲導犬協会に直接問い合わせる方法があります。各都道府県では年間で貸与できる盲導犬の頭数や予算が異なります。盲導犬協会によっては、宿泊をして盲導犬との生活体験ができる場合もあります。

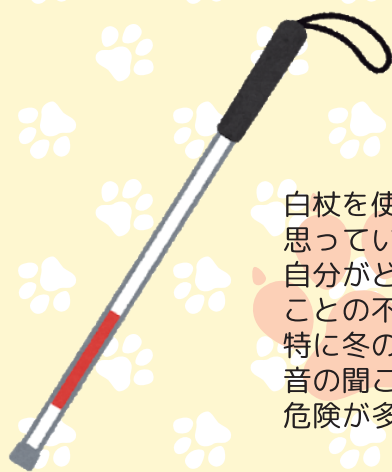


Q.盲導犬がいれば安全じゃないの？

A.盲導犬は、ユーザーさんからの指示で目的地に誘導しているのであって、盲導犬自身がナビの役割をしているわけではありません。例えば信号の判別もユーザーさんが車の通る音を聞き分けて行っています。だから信号が赤でも交通量が少ないと、ユーザーさんは勘違いして犬に指示を出してしまうこともあるのです。盲導犬は万能ではありません。犬自身も考えたり迷ったりすることもあります。それを頭に入れて、盲導犬と目の不自由な方を社会全体で見守っていくことが大切です。

Q.目の不自由な方は盲導犬と歩く以外にどうやって外出するの？

A.盲導犬の他には、白杖、手引きで歩く方法があります。また、電子機器を補助具として使う方もいます。電子機器はレーザーが反射することで障害物が分かり、それを音や振動で人に伝えます。将来的にはナビゲーションシステムを使った方法が出てくるかもしれません。冬の雪道を歩くときには白杖の先に丸いボールのようなものをつけ、白杖が雪に刺さらないようにする工夫があります。



白杖を使って歩く体験もさせて頂きましたが、思っていた以上に恐怖感や孤独感が強く、自分がどこにいたかが分からないということの不安を知りました。特に冬の雪道では道路の凹凸が覆われ、音の聞こえ方も変わるため、危険が多いように感じました。

Q.目の不自由な方が使っている白い杖ってなんですか？

A.正式名称は「白杖：はくじょう」といい、3つの役割があります。

○身体を守る

体よりも先に白杖が障害物にあたることで、物にぶつかってけがをしたり、倒れてしまったりすることを防ぐことができます。

○前方の情報を知る

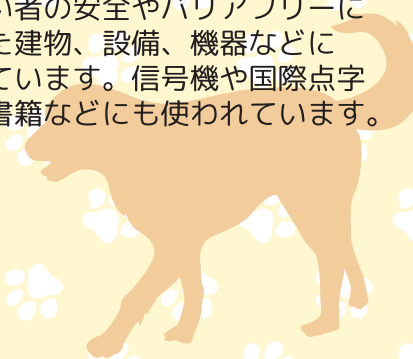
白杖をたたいたり滑らせたりすることで、路面のこぼこや段差を知ったり、点字ブロックをたどって歩いたりすることができます。

○目が不自由であることを周りの人に知らせる

周りの方がいち早く気付いてくださることで、人や物にぶつかりそうになったり、間違った方向に進んでしまったりしたときに、声をかけてくださったり、様々な配慮をしていただければ、目の不自由な方がより安全に街中を歩くことができます。



「盲人のための国際シンボルマーク」
世界盲人連合で1984年に制定された盲人のための世界共通のマークです。視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。信号機や国際点字郵便物・書籍などにも使われています。



目の不自由な方のためのグッズ

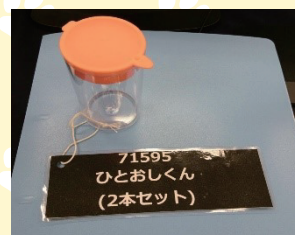
○トーキングウォッチ

目の不自由な方は、時計を見ることができません。この時計は、ボタンを押すと現在の時間を読み上げてくれます。



○ひとおしくん

調味料を入れる道具です。目が見えないとどれくらい注いでいるかわからなくなりますが、これはふたの部分を押すと一定量が注がれるようになっています。



○黒いメモ帳

目の見えにくい方の中には、黒地に白の文字のほうが見えやすい人もいます。この黒いメモ帳はそんな方々の助けになります。

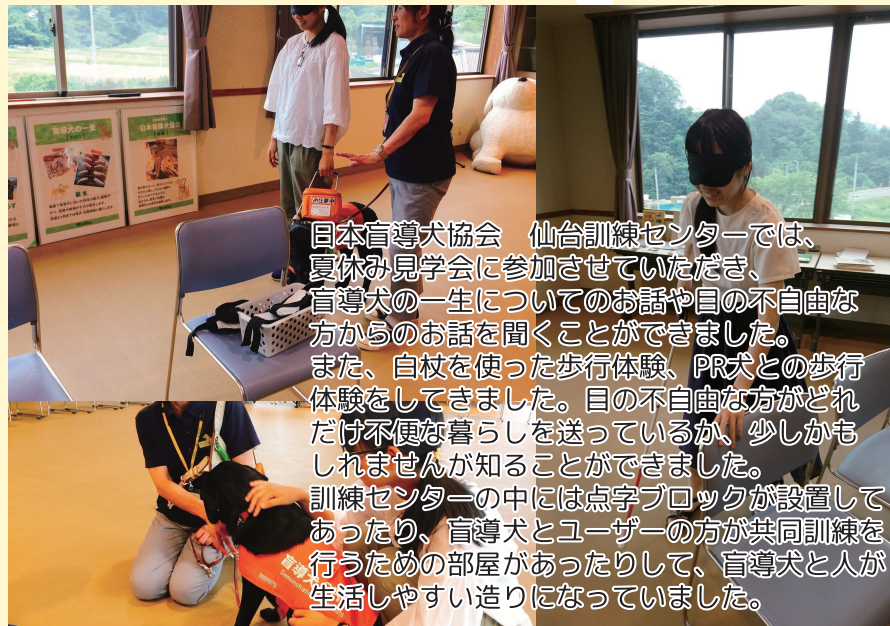


○CDの音声変換

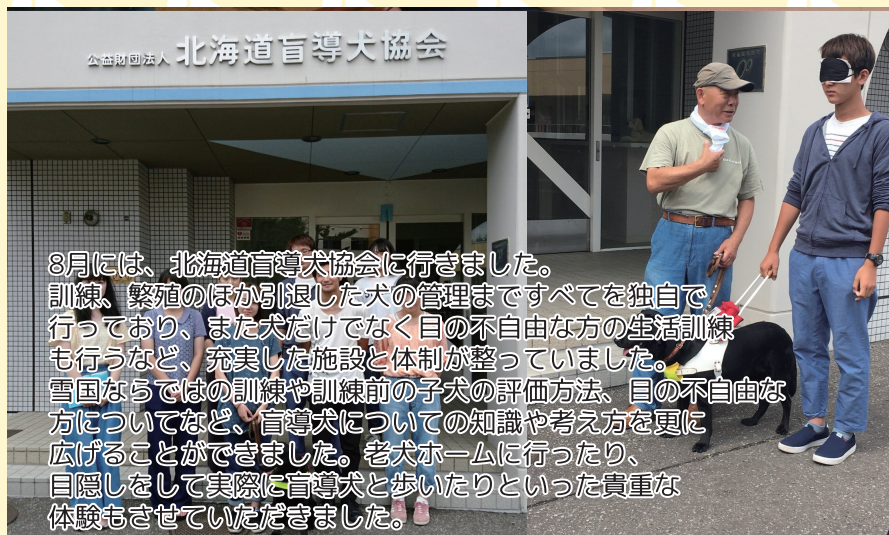
点字を習得することはとても難しく、点字を使う目の不自由な方の数は多くありません。この機械は、本の朗読のCDを流すもので、目の不自由な方にも使いやすい構造となっています。



活動紹介



日本盲導犬協会 仙台訓練センターでは、夏休み見学会に参加させていただき、盲導犬の一生についてのお話や目の不自由な方からのお話を聞くことができました。また、自杖を使った歩行体験、PR犬との歩行体験をしてきました。目の不自由な方がどれだけ不便な暮らしを送っているか、少しかもしれませんが知る事ができました。訓練センターの中には点字ブロックが設置してあったり、盲導犬とユーザーの方が共同訓練を行うための部屋があったりして、盲導犬と人が生活しやすい造りになっていました。



8月には、北海道盲導犬協会に行きました。訓練、繁殖のほか引退した犬の管理まですべてを独自で行っており、また犬だけでなく目の不自由な方の生活訓練も行うなど、充実した施設と体制が整っていました。雪国ならではの訓練や訓練前の子犬の評価方法、目の不自由な方についてなど、盲導犬についての知識や考え方を更に広げることができました。老犬ホームに行ったり、目隠しをして実際に盲導犬と歩いたりといった貴重な体験もさせていただきました。

盲導犬ユーザーの安達さんのお宅に訪問させていただき、たくさんのお話をうかがってきました。盲導犬との暮らし、声かけの方法、目が見えないことによる困難、逆に目が見えなくなったことで気づけたことなど内容は多岐にわたりました。盲導犬に関する活動を行なっていく上で、実際のユーザーさんにお話を聞くというのはとても実りあることであり、大変貴重な経験となりました。



キャリアチェンジ犬ボランティアの千葉さんと、そのパートナーのヘンリー君に会いに行き、様々なお話を聞くことができました。ヘンリー君は、すごく人懐っこい性格が盲導犬に適さないということでキャリアチェンジになりましたが、千葉さんのもとでとても楽しそうにしている様子を見て、心が温まりました。千葉さんはヘンリー君に、今まで訓練で大変だった分楽しく暮らしてほしいと考えているようで、ヘンリー君への愛情が感じられました。

【リンク先】

プロジェクト公式Twitter
「岩手大学盲導犬プロジェクト」



【見学・取材協力先】

公益財団法人 北海道盲導犬協会

公益財団法人 日本盲導犬協会仙台訓練センター

盲導犬ユーザー 安達靖子さん

キャリアチェンジ犬飼育ボランティア 千葉幸子さん

この場を借りて私たちの活動を支えていただいた皆様に
深く感謝申し上げます。
また、プロジェクト企画段階からお世話になっている
岩手大学学生支援課職員の皆様、
並びにLet'sびぎんプロジェクト担当の先生方には
大変感謝しております。
今後の活動でも引き続きよろしくお願いいたします。

『岩手で活躍する盲導犬はどこから来るの？
—知ってほしい、目の不自由な方のこと、盲導犬のこと—』

【プロジェクトメンバー】

代表	村田	美和
副代表	高橋	ひろの
会計	三根	琴美
	橋口	季和
	柳瀬	光
	海野	綾香
	鎌田	朋弥
	倉部	鈴美
	小山	慧祐
	仲山	玲香
	長通	みなみ
	成田	泰雅
	峯村	佳武

印刷会社 杜陵高速印刷(株)
発行日 平成30年10月26日

この冊子は、岩手大学Let'sびぎんプロジェクトとして作成しています。

